

2017年9月28日

衆議院の解散にあたってのJAM書記長談話

J A M

書記長 中井寛哉

第194回臨時国会の初日を迎えた本日9月28日、安倍首相が衆議院を解散し、10月10日公示・22日投開票の日程で総選挙が行われることとなった。

衆議院の解散は内閣総理大臣の専権事項であるものの、8月3日に発足させた改造内閣による所信表明も国会質疑もないまま実行することは、まったく異例な事態である。追及逃れ・疑惑隠しの批判は免れない。まさに「安倍一強政治」の驕りの表面化に他ならず、大義なき解散のそしりは免れないものである。

一方、われわれが支持・支援してきた民進党は、前原誠司代表のこれまでにない大胆な決断によって、「安倍政権打倒」をめざす大同団結の道を選択した。民進党は、2012年の下野以来、今日に至るまで議員の離反などが続き、政権獲得時に掴み取った幅広い国民の支持・信頼を回復できない状況が続いたことも事実である。

JAMは1999年の結成以来、政権交代による緊張感ある政治体制の下で、生活者・勤労国民を重視する政治勢力による政権を追求してきた。また、『反自民・非共産』の政治スタンスは、われわれの運動が1960年代から脈々と掲げ続けてきた旗印だ。自民党に対抗する勢力形成をめざした今回の民進党・前原代表の判断は、JAMの理念・政治方針と軌を一にするものであり、この状況下における最善の判断であったと受け止める。

総選挙は、政権選択の選挙である。いまこそ政権を変えるチャンスであり、われわれの手で『真の働き方改革』を実現しなければならない。JAMは、今次総選挙にあたり、新政党「希望の党」公認候補者を中心とした推薦候補者を再確認し、戦いに臨む。

10月22日の決戦の日が刻一刻と近づいている。われわれに残された時間は多くはないが、われわれの“望み”を実現するために、全国1,900加盟組合・37万組合員の総行動を本日よりスタートさせる。

行動無くして、結果は導き出せない。必ず勝利しよう!!

以上